日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成11年1月1日
第19号

平成十四年、我々日蓮聖人門下では開宗七五〇年を迎える。ますます混迷する現代社会の中で、我々は何をなすべきか。各門流様々な企画が進行中である。後世のためにも、門下総力を挙げて今この時代に爪の跡を残し祖恩報謝に勤めよう。

リレー提言⑨

750年に向かって邁進する覚悟

法華宗真門流宗務総長
吉田 研宏

総本山本隆寺開創五百年慶讃大法要を終えて

平成十四年の立教開宗七百五十年を迎えますが、ときあたかも不況の荒波にもまれ、世界各国に政情不安がおこり、人心錯乱し、混迷の世相を呈する昨今、大聖人御在世当時の鎌倉時代の再現かと思われる様な気がいたします。

新聞、週刊誌等の紙面を賑わす犯罪の悪質多彩な現状を見るとき、人心の如何に貧しいかという事を感じずにはいられません。

いま日本の国内がかかえる諸問題を考えるとき、混迷、不安、不況等を一掃する様努力が必要であります。

「所詮天下泰平、国土安穏は、一人より万民に至るまで好む所、願う所也」（立正安国論）

と仰せの如く、平和を切望して居られ、末法の私たちに「南無妙法蓮華経」の唱導をお授け下さいました御本意は、「一天四海、皆帰妙法、後五百歳中、広宣流布」であり、「天下泰平、国土安穏、万民快楽」であります。

私たち法華宗真門流では、昭和五十一年より、「合掌し合う友をつくろう」というスローガンのもと、「高祖開祖のみ心にかえろう」「お互の仏性をおがみ合いましょう」と合掌運動を展開して参りました。

昭和五十二年三月に開祖日真大和尚四百五十遠忌、昭和五十六年四月に高祖日蓮大聖人七百遠忌、平成三年四月には日像菩薩六百五十遠忌と十五年間で宗門の三大御遠忌を厳修して参りました。その間、昭和六十三年四月には、総本山本隆寺開創五百年慶讃大法要を厳修、本隆寺と特に仏縁深い後柏原天皇、明正天皇、明治天皇、三天皇の追福法要を奉修いたし、天皇陛下より「手折桜」と銘された御菓子のお供えに浴し、恐懼感激、三天皇追福のお題目を声高らかに唱えた次第です。

また五百年の記念事業として霊宝館を建立して、本隆寺の寺宝宗宝を展示し参詣者に見て頂く様にいたしております。

五百年記念慶讃大法要を終えて歴史の重みと総本山としての威光を感じずには居られません。

歴代の貫主様の御威光と多くの先師の御努力が本隆寺を支えて来た事を誉りに思います。

昭和六十一年には本堂及び祖師堂が京都府指定の有形文化財に指定を受け現在に至る。

関西大学の永井規男教授の説によると、京都の日蓮門下寺院の大半が市中にあるために、大火によって全焼する事が多く、そのために門下寺院の古い遺構が少なく、他宗派の寺院も含めて中心伽藍が本隆寺に匹敵するものは十指に満たないであろう、とのこと。

そして、本堂は、承応三年の火災後第十世真性院日遵上人の尽力で明暦二年（一六五六）の春着工、翌年秋に竣工、正面（柱間）七間、側面七面の本格的な規模、構造を持つ堂であって、近世前期の本山本堂の典型となり得る資格十分である。

祖師堂の歴史は、本堂ほど明確でなく、本堂より古いという以前からの説があった。新旧の混った建物で堂の後半部、小屋組には古い材が用いられている。おそらく古い堂を改造したか、古材を再利用して建てられたのかも知れない。屋根瓦には永禄五年の銘をもつものがあり、古材はここまで遡る可能性もあり得よう。

京都の日蓮門下寺院の中では、最古の祖師堂遺構であることは間違いない。

総本山本隆寺南大門

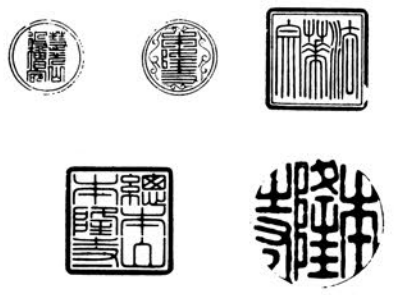
本隆寺伽藍の価値はまた、本堂と祖師堂が近世前期のものとしてセットで残っているところにある。

こうして本隆寺伽藍において、門下寺院伽藍配置の一方の典型を見、また、本堂、祖師堂において近世前期の内容、質ともに充実した両堂の典型を見ることが出来るのである。

印鑑

印影

印形



本隆寺印譜

後柏原天皇下賜の寺印

青年僧による清澄から京都本隆寺までの太鼓行脚

以上は永井教授講義の抜粋でありますが、本堂再建以来やがて三百五十年になります。

日真大和尚本隆寺開創以来五百年、歴祖の代数も、加歴も含めて百世になります。

平成二年三月、歴祖の事績等を一冊の書物にまとめるべく、伝燈録編纂委員会が発足、八ヶ年の歳月を経て平成十年三月に発行、永年の願いが完成いたし、開祖日真大和尚の祥月命日の三月二十九日総本山本隆寺本堂の御宝前にお供えして刊行報告法要を厳修いたしました。

これも高祖大聖人のお授け下さったお題目のおかげと感謝いたし、立教開宗七百五十年の御報恩の一助かと思い、日蓮大聖人、日像菩薩、開祖日真大和尚の御威徳と深く合掌唱題をした次第です。

なお真門流といたしましては、本年秋に宗会議員改選により新議員等を加えた慶讃会を発足させ、遅ればせながら立教開宗七百五十年に向かって邁進する覚悟であります。

事業予定としまして、歴祖をお祀りしてある龕前堂を再建、東通用門の脇に、宗務庁の庁舎をと考えております。また青年僧たちによる清澄から京都本隆寺まで太鼓行脚等も考えている最中です。

合掌運動は続けて行きます。

日蓮大聖人　報恩鈔に曰く

「日本乃至漢土、月氏一閻浮提に人ごとに、有智無智をきらはず、一同に他事をすてて南無妙法蓮華経と唱ふべし。」

南無妙法蓮華経　合掌

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いします。本紙に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会一同

従地涌出

◆日蓮聖人は、多年の修学成り、諸宗は無得道、法華経のみ成仏の大法であることを悟られた。末法万年の闇を破るべく、衆生救済、下剋上さかまき天変地異続発、支離滅裂の日本の根本解決のため、聖人は不惜身命、法難迫害を覚悟の上で、法華経弘通の大業開始を決意された。

◆建長五年三月、叡山を後にした日蓮聖人は、故郷房州清澄における立教開宗に先だち、伊勢神宮に参拝すべく、間の山浄明寺に参篭、太廟に大法開宣を奏上された。間の山に誓の井戸が伝えられているが、

われ日本の柱とならむ
われ日本の眼目とならむ
われ日本の大船とならむ

の三大誓願を奏されたという。

◆日蓮聖人の事業は、活きた法華経の実践、〈一天四海皆帰妙法〉、社会・国家・世界の法華経化である。なぜ「世界の柱」ではなく日本なのか。「一閻浮提第一の本尊この国に建つべし」。日本は法華経本縁の国であり、日本が一国同帰中心確立し、模範国となって法華経の真理を発信していくのである。日本の語の中に当然「世界」が含んでいるとみるべきで、日本の柱はただちに世界の柱なのだ。

◆二十一世紀を眼前に、世界人類は平和を希求しながら、争いは増加し難問題が山積し混迷は深まるばかりである。日蓮聖人は「閻浮第一の聖人」であられる。真の平和は、三大秘法を成就して人類一同に本門の妙戒を持つ暁でなければ実現しない。

◆三大誓願は、われらに〈広宣流布〉護法願業の相続と処生の根本安心を教示されたものであろう、「異体同心なれば万事を成ず」、同心とは日蓮聖人に同心することだから、なかなか容易なことではない。まさに不惜身命、聖人に絶対如法の信順を捧げ、唱導に浴して、大願業の中に生きるのみである。（秋）

日蓮宗慶讃事業の紹介

―― 750年に向けた各派の具体的な動き❶ ――

日蓮宗におきましては平成十四年の立教開宗七百五十年をお迎えするにあたり、平成五年度より立教開宗七百五十年慶讃会規程を施行し、その中で十一の事業について示し、総額八十六億八千四百万円の勧募を行うことを目標に実動を開始いたしました。以下その事業についての概要を申しあげます。

一、慶讃法要の奉行

宗祖が立教開宗された清澄寺にて、平成十四年の御正当に慶讃法要を奉行する事が基本であるとの見地から宗門法要として厳修し、四月二十八日を中心に清澄寺にて奉行することとした。さらに慶讃事業の円成を奉告するため、総本山である身延山久遠寺において、平成十五年に結願法要を営むこととしている。

二、記念式典並びに記念大会の開催

立教開宗の意義を明らかにし、記念すべき日蓮宗の開創を祝し、将来の宗門・寺院・教会・結社の発展を期して宗門主催の記念式典を行うとともに、全国的に記念大会を開催していくこととした。とくに平成九年五月二十八日には神奈川県の横浜アリーナにおいて宗門主催の中央大会を開催し、一万五千人の僧俗が集い、七百五十年慶讃に向けての誓願と決意を表明した。

中央大会（平成9年5月28日）

三、特別布教の展開

基本テーマを「誓願」とし、「特別布教教案」に基づき特別布教、唱題行脚、壱千万お題目写経及び全国よりの清澄寺団参参拝に取り組むこととした。特に壱千万お題目写経は法華経の肝心であり「経には題目たり」といわれるお題目を書写し、各寺院・教会・結社を通して清澄寺に納経する運動を重点的に実地している。これは「お題目から、はじまる」という七五〇慶讃の趣旨を実践するものであり、昭和五十六年の宗祖七百遠忌以後宗門運動として展開してきた「お題目総弘通運動」を推進していく一環となっているものでもある。

四、日蓮宗総合庁舎の建設

激しく変化する時代に即応し、総合的で多目的な機能を有し、伝道教化に役立ち得る機能を備えた、宗門中枢機関の整備充実は不可欠であるとの観点から「日蓮宗総合庁舎」を建設する事とした。場所は現在地の東京都大田区池上として、総予算は二十三億九百万円。

五、日蓮宗清澄寺研修会館の建設並びに清澄寺旭カ森の整備

お題目を弘め、日蓮宗並びに寺院・教会・結社の担い手となる法器の育成、僧風教育と生涯学習などによる人材の養成を目指し、不断の修学と適宜に使用できる教育研修の場として有効利用する。機能としては事務所、食堂、講堂、研修室、宿泊室などを設けており本年四月には竣工し落慶法要を奉行する予定。

六、海外開教布教センターの建設

海外布教の振興は、これまで現地の開教布教師の努力に依存してきたが、宗門として海外布教の前線基地である教会で布教に当たっている開教師を支援し、一層の開教布教の促進をはかるため「海外開教布教センター」を建設することとなった。礼拝施設、集会場、会議室、資料室等の諸施設を備えたセンターを北米サンフランシスコ周辺に建設する。この「海外開教布教センター」を中心に、外国語の布教資料の出版、聖典の翻訳、外国人教師の養成、未開教地への布教など多面的な海外布教の展開を図ることとなった。

七、祖山・霊跡・由緒寺院の記念行事及び事業の助成

宗門史跡（日蓮聖人及び宗門に由緒のある重要な事跡）への顕彰は、日蓮聖人の遊学された比叡山横川の地に助成を行う。

八、全国各管区記念事業の助成

全国各管区（七十四管区）に対して管区特別助成金として、勧募実納金額の三分を交付する。又、全国各管区に対して特別記念事業助成金を交付する。基本助成金として一管区三百万円、及び管区内寺院・教会・結社数に十万円を乗じた金額を助成する。

九、法器養成及び育英事業の助成

法器の養成、社会福祉活動に取り組む人材の育成は、将来の宗門活動とその担い手づくりの上で重要な事業と考える。具体的には宗門の法器養成と育英、幼児教育面を担っている関係三法人、日蓮宗総合財団、立正育英会、立正福祉会に助成する。

十、各種出版事業並びに慶讃経要の刊行

法華経と日蓮聖人御遺文は根本聖典としての拠り所である。法華経と日蓮聖人御遺文を教学面から明らかにし、また平易に解説して習学及び布教の資とすることを目的とし、日蓮宗版「法華経」の作成、「宗定法要式改訂版」の作成、法華経・御遺文・日蓮宗事典等のデジタル化及びそれぞれの検索、連動などを考慮したデータベースの作成などを計画し現在作業を進めている。

十一、その他目的を達成するため必要な事業

これについては勧募金の収納状況により考慮することとしており、勧募金が予想を越えて収納された場合に検討する事となる。

以上の十一項目に亘る事業の円成をめざして活動しております。

立教開宗は末法日本における法華経、お題目の弘通と、これを担い継承する日蓮宗の開創を宣言したものであります。それ故に立教開宗の基本テーマは「誓願」であり、めざすものはお題目総弘通と立正安国であります。「お題目からはじまる」を合言葉に「誓願」を表明し、「お題目総弘通運動」を展開しつつ、人的、物的な基礎とその担い手を教化育成し活かしていくことをめざして慶讃奉行に取り組んでいくことが立教開宗の精神を継承し今日に具体化する道であります。

編集長就任にあたって　生駒　雅幸

門下連合会京都理事会が終了し、門連だより第十九号の発行に向けて編集委員の各聖にはその校正作業を進めて頂いている。平成十四年を我々門下は如何に迎えるかこの共通課題を念頭に置き乍ら編集の話題以外でも熱の入った議論を行っている。

スタッフの中には七〇〇遠忌当時を知る方や、青年の船に乗られた方々もいる。立教開宗七五〇年の事を語る時、遠忌当時の心をそのままに熱い気持ちが伝わってくるのを感じる。そして開宗七五〇年御正当の前年、平成十三年は門下連合会発足四十周年でもある。その中で門連だよりの狙う役割には大きなものがあると思う。今般富川編集長の後任として編集に携わる事となったが、編集委員各聖の御協力を頂き、門下の連繋と発展のために努めていきたい。

日蓮聖人門下連合会

●目　的

本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事　業

本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体

日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

■団体参拝旅行には東急観光をご用命下さい。
8営業本部・国内150支店・海外23事業所がお待ちしております。
本社・公務法人部
〒153-8550　東京都目黒区東山3-8-1
電話　03-5704-3761
北海道営業本部・販売管理課
〒060-0002　北海道札幌市中央区北二条西2-15
電話　011-241-0303
東北営業本部・販売管理課
〒980-0021　宮城県仙台市青葉区中央1-6-18
電話　022-263-1711
関東営業本部・販売管理課
〒153-0044　東京都目黒区大橋1-5-3
電話　03-5489-6777
東京営業本部・販売課
〒153-8519　東京都目黒区大橋1-5-3
電話　03-5489-6701
中部営業本部・販売管理課
〒460-0002　愛知県名古屋市中区丸の内2-17-18
電話　052-232-1721
関西営業本部・販売課
〒541-0048　大阪府大阪市中央区瓦町4-2-14
電話　06-6226-1090
中四国営業本部・販売管理課
〒730-0032　広島県広島市中区立町2-27
電話　082-249-0109
九州営業本部・販売管理課
〒810-0001　福岡県福岡市中央区天神1-15-3
電話　092-712-2561

あけまして、おめでとうございます。

美しい時代へ―― 東急グループ

こころが動くとき。
いつも、あなたのそばに。

初めて目にするもの、聞こえてくるもの、自然の彩り、季節の恵み、そして、人と人との触れあい、
旅を通して、すべてのお客様に、いつも新鮮な感動と、心やすらぐひとときをお届けしたい。
この願いのもと、私たち東急観光は、オリジナリティ豊かなプランと、
一人ひとりの気持ちにお応えできる、充実した旅のご提供をめざしています。

豊かな感動のステージへ――
東急観光
運輸大臣登録旅行業第38号　日本旅行業協会正会員
〒153-8550　東京都目黒区東山3丁目8番1号

恭賀新春

平成十一年己卯

日蓮聖人門下連合会

日蓮宗宗務院

〒146-8544 東京都大田区池上一―三二―一五
電話 〇三(三七五一)七一八一(代)
FAX 〇三(三七五一)七一八六

管長 田中日淳
宗務総長 永井祥文
宗務副総長 渡辺一之
綜合企画部長 加賀美泰全
庶務部長 小松浄慎
財務部長 篠原智高
教務部長 二宮将泰
護法伝道部長 上田尚正
立教開宗七百五十年慶讃会事務局長 松井義昭
現代宗教研究所長 石川浩徳
国際開教室長 中條令紹
人権対策室長 前田幸廣
参与 堀江宏正
参与 浅井玄裕
日蓮宗新聞社社長 垣本孝精

法華宗(本門流)宗務院

〒170-0004 東京都豊島区北大塚一―二六―四
電話 〇三(三九一〇)四七五五(代)
FAX 〇三(三九一八)七九九四

管長 鈴木日有
宗務総長 原井慈鳳
教化部長 圓成淳龍
教学部長 桃井晋城
財務部長 坂巻顕導
庶務部長 矢吹慈英

顕本法華宗宗務院

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

管長 吉永日晴
宗務総長 中山昭夫
宗務次長 山本学人
財務部長 白井謙光
教務部長 奥村智学
社会部長 鈴木無着
布教部長 阿曽久成
庶務部長 三坂岳応
主事 山本晃道
多門顕正
津村乗信
小松正学

法華宗(陣門流)宗務院

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
電話 〇三(三九一八)七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

管長 竹嶋日香
宗務総長 土屋善敬
総務部長 都築哲信
教学部長 佐古弘文
教化部長 門谷東生
財務部長 八木恵岳

本門佛立宗宗務本庁

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る東竪町二一〇番地
電話 〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX 〇七五(四六四)五五九九

講有 井上日慶
講尊 梶本日裔
宗務総長 小山日誠
宗務副総長 笹田日昌
宗務副総長 佐藤政司
宗務本庁役員一同

日蓮本宗宗務院

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

管長 嘉儀日有
宗務総長 永田智秋
総務部長 佐藤哲夫
財務部長 岩崎隆義
法務部長 教学部長 岩崎廣義

法華宗(真門流)宗務庁

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

管長 真枝日世
宗務総長 吉田研宏
総務部長 上田浩岳
教学部長 辻本寛孝
教化部長 寺田完英
社会部長 水野日悲
財務部長 水野智啓

本門法華宗宗務院

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺内
電話 〇七五(四五一)三五二七

管長 松本日望
宗務総長 高邊信幸
宗務部長 信隆允忠
財務部長 増田隆雄
総務部長 藤井宏長
庶務部長 土畑信教
教務部長 音羽隆全
門連常任理事 持地光学

宗教法人

国柱会

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六―一九―一八
電話 〇三(三六五六)七一一一(代)
FAX 〇三(三六五六)九九八〇

会長 田中暉丘
理事長 大橋邦正
副理事長 入江克郎
門連理事 秋場善彌
門連理事 淀野寿夫

京都日蓮聖人門下連合会

会長 真枝日世
副会長 和田日攝
理事長 岩崎峻暉
副理事長 桃井晋城

京門連事務局
〒606-8376 京都市左京区二条通川端東入大菊町
日蓮宗本山頂妙寺布教会館内
日蓮宗京都府第一部宗務所
電話 〇七五(七六二)二四一一
FAX 〇七五(七五二)九三三八

日本山妙法寺大僧伽

日本山妙法寺大僧伽事務局
〒206-0812 東京都稲城市矢野口三五七一番地
電話 〇四二―三七八―三三九五
ファクス 〇四二―三七九―〇七四四

首座 塙行幸
長老 石山定光
長老 吉田行典
長老 酒迎天信
長老 今井行康
長老 西堀行施
長老 二宮和嘉
事務局長 今井行順

ての提言(2)

年の船」から20年

門連だより第16号・第17号では本紙編集委員による匿名座談会を通じ「門連共通の課題」をさぐり、立教開宗七百五十年に向け、門下連合会はもとより、門下各派の僧侶檀信徒が手をたずさえて、共通のビジョン達成に歩みを共にする道筋が、かすかながら描かれたやに思われる。

18号より、七百遠忌門連共同事業「日蓮聖人門下青年の船」実行委員の方々と参加者にスポットをあて、「七〇一年の旅立ち」を構想した当時のエネルギーを七五〇に向け、門下共に何をなすべきかについて御意見をいただくこととなった。

今号ではその第二弾として日蓮宗富川孝恭師や一般参加者として乗船した須加伸枝さん、法華宗真門流堀内浩善師、日蓮本宗今村仁要師の四方に当時の模様、ご意見、感想をいただいた。

七五〇に向けて

日蓮宗　富川孝恭

日蓮聖人第七百遠忌に際し、日蓮聖人門下連合会は

1、演劇部門　日蓮聖人劇の上演（54年度・56年度）
2、展覧会部門　日蓮聖人展の開催
3、音楽部門　オラトリオ日蓮聖人の制作公演
4、青年部門　日蓮聖人門下「青年の船」

の四部門の報恩事業を定め、昭和五十年より正当五十六年をはさみ五十七年迄、八ヶ年にわたって展開実施した。

日蓮聖人劇は前進座に依頼し、五十四年、五十六年の二ヶ年、全国公演のべ二三五ステージを展開し、大きな成果を収めた。

日蓮聖人展は「願いと心」をテーマに御正当昭和五十六年に東京、大阪、九州で開催、出品数97、パネル26を展示、門下各派入場券の割当てを行い、観客一〇〇、二〇四名に達した。

オラトリオ日蓮聖人の制作公演は詩人・西川満氏に作詩を依頼、黛敏郎氏が作曲を担当、昭和五十七年四月二十七日、新宿文化センターでの発表会は大きな感動を聴衆に与えた。この折作成されたライブレコードは四、一〇〇部、各派に配布された。

日蓮聖人門下青年の船は「めざせ立正安国、七〇一年の旅立ち」をテーマに、門下各派青年が実行委員会を組織、船内、船外学習、イベント等全てを企画、五十七年三月二十六日、サイパン・グアムに向け出航、四月五日無事横浜港に帰着した。

参加約五〇〇名の男女、慰霊法要、朝勤、専門セミナー、一般教養、クラブ活動、現地での交流等を通じての切磋琢磨、心のふれあいは参加者に大きな感銘を刻んだ。

これらの共同事業は頭初述べた如く日蓮聖人門下連合会が七〇〇遠忌報恩事業として行ったものであるが、これらの事業は全て一般社会、外部との接点をもつ事業であった事を想起したい。

さて門下連合会として、来たる立教開宗七百五十年に向け、実現可能な三つの柱について提言したい。その三つの柱とは、

1、「日蓮聖人門連だより」拡充強化
2、仮称「法華信仰者の芸術文化展」の推進
3、比叡山横川定光院の参拝顕彰

である。

1、「日蓮聖人門連だより」の拡充強化（以下門連だより という）

「門連だより」は青年の船実行委員有志の発願により、御遠忌以降、門下青年交流の場として、又、門下連合会機関紙としての役割を荷い昭和六十一年四月二八日第一号が創刊された。編集委員は各派より派遣され、日蓮宗宗務院、あるいは各派を持回り編集会議を開催、年二回の刊行を行い、今号で第十九号を数える。

御遠忌共同事業をふまえて創刊された「門連だより」が門連各派の結束、紐帯として果してきた役割は誠に大きいと思う。特に各派の青年達が腹蔵なく教学を論じ、門下の未来を語りあう編集委員会の熱気溢れる雰囲気を、特筆しておきたい。

「門連だより」編集委員各位の柔軟な頭脳からさまざまな未来が描かれ行動が生れつつある現状をみる時、門下連合会の未来に明るいものを感ずる。門連事業の大きな柱である「門連だより」の拡充強化に門連の皆様の物心両面の御支援を期待したい。

2、仮称「法華信仰者の芸術文化展」の推進

右については本紙でも度々報道されているが、現在立教開宗七百五十年に向けて門下連合会の俎上に乗った唯一の企画である。

門下連合会と国立東京博物館との交渉では展示内容は室町期より江戸期に至る日蓮聖人門下僧侶、信者で著名な芸術、美術に秀れた人々の作品（絵画、彫刻、工芸、墨蹟など）で展示総数およそ百五十点、内五十点を門下各派より出展、あとは博物館サイドで蒐集にあたる、との事である。

御遠忌共同事業の日蓮聖人展は会場が百貨店であったが、今回企画は、国立博物館、国立京都博物館という事で、その権威と社会に対するアッピールの度合において格段の差があると思う。

先頃、真宗蓮如上人御遠忌に縁して様々なイベントが繰りひろげられたが、この好機を積極的にとらえるべきと思う。全門下で「五十点」の展示数は努力すれば十分可能な数字であると思う。およそ一億～一億五千万円の本展費用は全て博物館負担、切符の割当と動員分担は一切なしということが何より心強い。本企画の実行について門下連合会の積極的取り組み、加盟各派の協力態勢を期待したい。

3、比叡山横川定光院の参拝顕彰

横川定光院は日蓮大聖人叡山御遊学の御霊蹟で、古来幾多先師、各聖各位の熱き護持顕彰の志により今日の姿がある。

特に大書すべきは、大聖人の銅像建立である。大正十二年、村雲瑞龍寺門跡村雲日浄尼公、大本山本圀寺濱井日成、大本山妙顕寺貫首河合日辰、定光院掛錫長橋啓慎の各上人と比叡山横川定光院保存会幹事天野治兵衛、高橋友七、向井才介の各氏が「比叡山横川定光院日蓮聖人銅像建設発願人」となり、賛成人には京都日蓮聖人門下の十六各本山貫首猊下名をつらねて浄財勧募、大正十三年四月十九日開眼法要が営まれた。

大正十二年（一九二三年）九月一日、完成した日蓮聖人の銅像は東京品川駅をご出発、この直後に関東大震災が発生、四十万戸の家屋倒壊炎上、死者十余万人という災厄が著起したが、仏天の加護によりご銅像は翌二日京都二条駅にご安着になった。

翌年四月船と牛車にて定光院に無事ご到着、開眼法要は千数百人の僧俗参列のなか盛大に行われたという。それらの記録は全て銅像内に納められているという。

門下各派こぞって協力一致、横川の霊地に大聖人銅像建立をなしとげた歴史がここにある。

平成五年四月一日、比叡山御当局は叡山の一山寺院である定光院（代表役員は執行）をその歴史伝統に鑑み、日蓮宗に対しその護持、運営を一任された。（協定書とりかわし）日蓮宗は主監、主任、副主任を置いて定光院を守り、護持、顕彰整備にあたる一方、広く一般僧侶、檀信徒にも加入していただける護持顕彰会を組織、護持顕彰にあたっている。

現在、京都門下連合会による立教開宗会の折の参詣、日蓮宗近畿教区内輪番による春季法要、護持顕彰会による秋季法要が営まれている。

銅像建立の縁由に照らし、今後門下連合各派による輪番参拝団の組織などどうであろうか。全日蓮門下の共通の御霊跡横川の霊地に、こぞって参拝していただきたいと思う。

各派教団、自由な御法儀によって参詣参籠を受け入れる体制となっていることも申しそえたい。

以上不肖が直接たずさわった仕事に即しての感想、提言である。

「青年の船」参加者として

日蓮宗　須加伸枝

私が、「青年の船」に参加したのは、もう十七年前になりますが、十代の多感な時期に、あのような素晴らしい経験が出来た事は、とても良かったと思います。

初めての船旅、船酔いは少し大変でしたが、今となっては、とても懐かしい思い出です。ダンス活動や英会話等、様々な教室の活動、ダンスパーティやカクテルパーティ、フルコースの食事等、戸惑いながらも楽しい初めての経験で、長い船旅も退屈することなく過ごせました。

グアムやサイパンの海も、とても美しく、この海や島で五十年前に戦争が行われ、大勢の人達が亡くなったなんて、とても信じられませんでしたが、慰霊法要に参加することによって、今まで教科書等を通じてだけしか知識のなかった戦争が、初めて身近に感じる事が出来ました。

そのような、どれひとつをとっても貴重な経験の中で、一番素晴らしかったと言える事は、普通ならば、あまりお付き合いする機会のない、日蓮聖人門下連合会の様々な宗派の僧侶の方々、信仰されている方々と同じお題目を通して触れ合える御縁を頂けたことによって、それまでの自分の信仰をより一層深め、再確認することが出来たことです。

先日、ある新聞の投書欄で、闘病生活をされている二十代の女性の方が、「宗教団体からの勧誘があった時に、いくら苦しくても、何かにすがって生きて行くなんてことは絶対にしたくない…」というような意見を述べられていました。

私にとって信仰とは、日常生活の中で、常にお陰様という感謝の気持ちを、お題目に込めるという、ただそれだけだと思ってたので、なぜ、この女性は、このように考えてしまうのだろうと、疑問に思いましたが、やがてハッと気がつきました。私は幼い頃から信仰熱心な母親と共に、毎日ごく自然に仏壇の前で手を合わせたり、お寺にお参りしたりしていましたが、現代の日本では、宗教や信仰は、日常生活とは掛け離れたところにあるからではないかと。

私が幼い頃は、「だれも見ていなくても、仏様が見ているのだから、悪いことはできないんだよ。嘘をつくと閻魔様に舌を抜かれてしまうよ」等と大人の人に言われたり、生活の中に、自然に宗教的なことが生きていたように思えます。

現代は、宗教というと、先程の女性のように受け止めたり、怪しげな団体と思われがちですが、やはり、幼い頃から自然に手を合わせたりといった習慣や、環境が必要ではないでしょうか。生活の中に生かされていないから、何か苦しいことがあった時の逃げ道と考えてしまったり、御利益ばかりを求めたりするようになってしまうのだと思います。

私は、「青年の船」に参加した時の、様々な若者が、一心にお題目を唱える姿を思い出すたびに、現代のような社会には、正しい信仰は本当に必要だと思いますし、子供のうちから、自然に手を合わせることができるような環境を作ってあげることが、日蓮聖人が命がけで弘められたお題目を信仰する私たちの重要な役割ではないかと思います。

「青年の船」の参加者の一人として、色々とりとめのないことを書かせて頂きましたが、日蓮聖人立教開宗七五〇年まで、残りわずか三年程となりました。

これから、門下連合会の皆様も、色々な事業を行われると思いますが、ぜひ、あの「青年の船」のような、青少年に対する研修・信仰を深めることのできる場、例えば修養道場等を沢山企画して頂きたいと思います。

若い時の経験や、信仰体験は、一生の宝物になるのです。

立教開宗750年に向け

日蓮聖人門下「青

真の正法興隆をめざし

法華宗真門流　堀内浩善

日蓮門下連合会七百遠忌御報恩四大事業の一つ「青年の船」は、七百遠忌の翌七百一年、昭和五十六年三月『七〇一年の旅立ち』　めざせ立正安国　青春さまざま信仰はひとつのスローガンの下、門下各派の青年層五百名が結集し、共に御題目を唱える仲間としての連帯友情は深められ参加者一体となった。船内外での活動は、異体同心の体現そのものであり、予想以上の成果を収めた。

この事業に対し、門下連合会の実施の決断と、各派教団の御理解、御尽力もさることながら、各派の青年層の代表（数名）からなる実行委員会が、小異をすて大同について、柔軟な発想、機敏な行動力で企画準備、運営にまで携わり、本事業が成し遂げられた事は、誠に意義深いものであり、今後門下連合が事業を推進する上で、一つの布石と成り得たのではないか。

「立教開宗七五〇年に向けて、門連共に何をすべきか」　私見を述べるに、門下連合会が結成から今日まで、各派がその立場の違いを越えて運営してこられた、先覚諸師の御苦労は大変であったと思う。

しかし今、各派末寺教師に門下連合会の一員であるという意識があるかといえばほとんどなく、門下連合会という組織に対し、又目的、事業に対しても何の関心もなく、各派行政関係役員諸師の意見交換の場程度の認識しかないのが現実ではなかろうか。まず各派末寺教師が、門下連合会の一員であるとの意識を高めていく必要がある。その方策の一つとして、門下共通の論壇の場として、門下連合の連帯の意識を高めていく目的をもっている、門下連合会唯一の機関誌である『門連だより』を通してのより一層の啓蒙を強めていく必要があり、又各派機関誌等においても、門下連合会に関係する記事を掲載して啓蒙に勉めるべきである。

次に、今日の社会、少子高齢化、経済不況、自然環境問題、犯罪の低年齢化等、混迷の度を深め、宗教界全体でも、その質が問われている。国家、社会、大衆に眼を向けておられた、日蓮聖人の精神、願いに応えるべく原点を再確認し、その精神、願いを如何に伝えていくか、この社会に適応した、門下連合会の組織強化、基礎八事業の推進でなければならない。そして、立教開宗七五〇年に向け、社会やマスコミに対し、門下連合会として日蓮聖人の立教開宗の精神をどの様にアピールし広宣するのか、誰からも受け入れられる発想と事業が求められる。

それ故に、まず門下各派が従来の観念を押え、門下連合会基本八事業への基本姿勢の確立が急がれる。次いで、門下連合会組織内に、各派代表の青年層による、日蓮聖人の御恩に応える事業を、柔軟な発想で討究し、常任理事会に事業企画案を提議していく機関、仮称「基本事業企画推進委員会」の設置を求めたい。

将来、この委員会が核となり、先の青年の船の後に検討された、「門下連合青年会」の結成実現につながっていく様望みたい。

次の世代を担う　各派青年層の枠組を越えた交流こそが、門下連合会の「目的・連絡・協力・団結」の共通理念を高め、連合会の結束発展に寄与し、門下各派の活性化を促すのではなかろうか。

平成十四年、立教開宗七五〇年を新たなるスタートと考え、各派青年層が異体同心に結束し実をあげ、日蓮聖人の御教恩に応えるべき真の正法興隆をめざし邁進出来る事を望み、門下連合会のより一層の組織の充実、発展を念願します。

こころの教育

日蓮本宗　今村仁要

「七〇一年の旅立ち」をスローガンにかかげ、昭和五十六年に実施された太平洋の大海原を航海して、サイパン・グアムでの慰霊法要を兼ねた「日蓮聖人門下青年の船」に参加してから十七年が経過した。

この年に日蓮本宗より教師の資格をいただき、青年僧として歩みをはじめたばかりの私は、島根大学農学部で環境保全学を専攻する二回生であった。

普段は気ままな下宿生活を送り、自坊に帰省したとき以外はほとんど、法務にたずさわることはなかった。当時の日本の社会情勢は好景気に沸き、倒産・リストラ・失業という言葉などはほとんど耳にしなかった。また、高度成長期以降に生じた種々の公害等の環境問題も一応鎮静化し、マスコミ等に取り上げられることも少なかった。

しかし、環境問題を研究していた私たちが常に研究室で話題にしていたのは、現在大きな社会問題になっている「ダイオキシンを始めとする科学物質が生体・生物濃縮を通じて自分たちに降りかかってくる、乱開発によって失われつつある森林の機能の低下する、フロンガスの使用とオゾン層の破壊など」であった。

豊かで快適な生活を続けるためには、膨大な物資とエネルギーが必要であり、さまざまな問題を今後も生じさせるであろう。だからといって、資源を使わない大昔の生活に戻ることなど不可能である。矛盾しており、大きすぎて解決の見いだせない問題であるが、個人のレベルで対処できることはいくらでもある。

不用な電灯をこまめに消すなど節電に心掛ける、ゴミの分別回収に協力するなど、まさに「貧者の一灯」、小さなことに気を配ることが大切である。そうすれば、自ずから生活に対する考え方が変わり、行動が変わってくるのである。「小さな気配り」こそが「皆共に救われましょう」という法華経の教えを実践することであり、問題解決への第一歩であると私は思う。

大学・大学院で研究を続けた後、京都精華女子高校に就職し、現在に至っている。自坊の副住職との二足の草鞋を履いているが、法務は専ら住職に頼っているのが現状である。

近年、少年の問題行動や犯罪の低年齢化などが大きな社会問題となり、教育のあり方が問い直されている。教育に携わる一人として関心を持たなければならないことである。

まず、親と子、先生と生徒、生徒相互の人間関係を良好に保つことが重要である。学校においては、先生と生徒との信頼関係が薄れたために起る問題も多い。信頼のない先生の言うことを生徒は聞かない。また、先生が生徒のためを思って突き放して自分で考えさせようとした場合、真意が理解できずに、我慢しきれないで失敗におわることもよくある。

そこで、よく知られていることであるが、ある師弟の関係について考えてみよう。

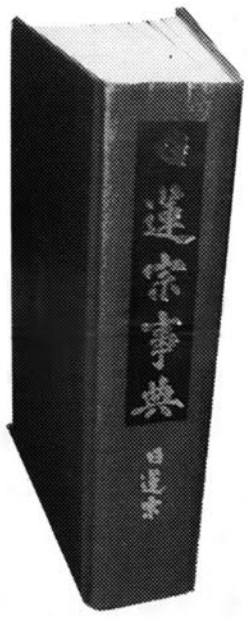
本山要法寺開山日尊上人は、北山本門寺で、師日興上人の「御義口伝」の御講義中に、風で飛んできた一枚の梨の枯れ葉に目が移ったことを咎められ、勘当という厳しい処分を受けられた。日尊上人は、深く反省され、御勘気を解くには法恩に報いるしかないとお考えになり、法華弘通の十二年間に三十六ヶ寺を建立された。

この法功により、日興上人からお許しを得ることができた。日興上人と日尊上人との間には大変深い慈悲の心と信頼関係をうかがうことができる。「師厳道尊」即ち、道尊きがゆえに師厳たりが、本山要法寺に脈々と伝わっている教えである。

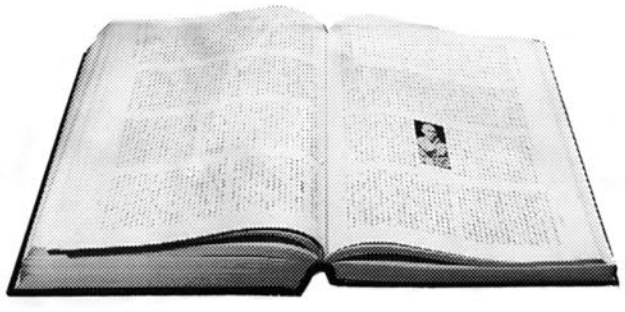
現在は、膨大な情報が次から次へと提供され、流行に遅れまいと新しいものを追いかけるために、一つとは限らない答えを安直に要求し、物事をじっくりと思案することが出来にくくなっている。このような世の中で信頼を保ち深めるには、礼儀と相手への気配りが要求される。

特に、次の世代を担う子供たちが、親を親と思わない言動を慎み、我慢しなくてはならないときには、辛抱強く我慢できるように、「こころの教育」をこぞって実践することが大切であると思う。

『日蓮宗事典』《復刻版》
限定400部
予約受付中



定価　28,000円（〒別）
※限定予約価格　23,000円（税・〒別）
※限定400部のうち、５月末日までの販売に限り実施



日蓮宗が全仏教界に誇る
全項目網羅の基本事典

■総収録語彙　6,000余項目
教学／歴史／組織・機構／布教・社教・修法／
法式／文学／絵画・建築／資料他
・全項目索引付き　全1378頁（巻頭カラーグラフ別）

●お申し込み 03-3755-5271 日蓮宗新聞社

恭賀新春

平成十一年己卯

日蓮宗総本山 **身延山久遠寺**
法主 岩間日勇
総務 藤井教雄
役職員一同
〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 〇五五六六(二)一〇一一
FAX 〇五五六六(二)一〇九四

日蓮宗大本山 **池上本門寺**
貫首 田中日淳
執事長 市川智康
〒146-8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五二)二三三一
FAX 〇三(三七五二)三三五〇

顕本法華宗総本山 **妙満寺**
貫首 吉永日晴
総務 大川定信
執事 安東靖弘
執事 山本晃道
執事 小松正学
執事 林孝瑞
〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九一)七一七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山 **本成寺**
貫首 竹嶋日香
執事長 真保行宣
執事 西山英仁
執事 鈴木顕正
執事 栗田孝之
執事 高橋俊二
執事 下間要一
〒955-0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三二)〇〇〇八

法華宗(真門流)総本山 **本隆寺**
貫主 真枝日世
執事長 岩崎峻暉
執事 笹木研秀
執事 矢放真文
〒602-8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗大本山 **妙蓮寺**
貫首 松本日望
執事長 飯田信栄
役職員一同
〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五一)三五二七
FAX 〇七五(四五一)三五九七

日蓮本宗 **本山要法寺**
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 永田智秋
執事 岩崎廣義
〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七一)三三九〇
FAX 〇七五(七七一)五九一四

本門佛立宗本山 **宥清寺**
住職(二十一世開宥) 井上日慶
事務局長 伊藤隆之
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇〇五―一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

立教開宗出家得度之霊地
日蓮宗大本山 **清澄寺**
別当 杉山日慎
〒299-5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 〇四七〇九(四)〇五二五

日蓮宗大本山 **妙顕寺**
貫首 山田一光
執事長 原光司
〒602-0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入

宗祖御誕生霊場
日蓮宗大本山 **誕生寺**
貫首 石川日命
〒299-5501 千葉県安房郡天津小湊町小湊一八三
電話 〇四七〇九(五)二六二一

日興上人御廟所
日蓮宗大本山 **富士山本門寺**
貫首 本間日諄
執事長 井出教道
〒418-0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五八)二五一七

日蓮宗大本山 **法華経寺**
貫首 長瀬日還
執事長 冨田義董
参与 関観康
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
同 土田勝宏
〒272-0813 千葉県市川市中山二―十―一
電話 〇四七(三三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山 **本法寺**
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首 金山日龍
〒602-0061 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル本法寺前町六一七
電話 〇七五(四四一)七九九七

やくよけ祖師
日蓮宗本山 **堀之内妙法寺**
山主 駒野教格
〒166-0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三一三)六二四一

日蓮宗本山 **頂妙寺**
貫首 永田恵遠
参与 山田完修
同 新井智清
執事 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝
〒606-8376 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 〇七五(七七一)〇五六二

門連時報

京都理事会・懇談会法華宗真門流総本山本隆寺で開催

平成十年十二月二日（火）京都市法華宗真門流総本山本隆寺（真枝日世貫首）に於いて、恒例の京都理事会・京都門連との懇談会が開催され本山貫首、門連理事、京都門連理事五十名が参加した。午後一時真枝貫首導師のもと、法味言上、遷化先師回向が厳修された。法要後、本堂前にて記念撮影、客殿に移り真枝貫首より、「本隆寺の縁起」について講演があった。

午後三時理事会を開議。生駒幹事司会のもと始まり、出席者全員自己紹介の後、永井祥文理事長座長となって議事進行、長谷川幹事より、上半期事業報告（常任理事会、身延理事会等）、門連だよりに関して、人事について、祖廟輪番奉仕について（国柱会五十一名参加）それぞれ報告を行った。京都門連事業報告に関して岩崎理事長より降誕会、開宗会、夏季大学、御会式等歴史と伝統ある活動が報告された。大阪門下懇話会に関しては、木下恵遠師より総会、御会式、研修会、京都本山めぐり等、一歩一歩成果を上げて来ている旨報告があった。

立教開宗七百五十年慶讃記念事業の、日蓮聖人門下の文化芸術（特に室町以降）にスポットをあてた展覧会について、生駒幹事より今日迄の経過と、東京国立博物館との交渉結果（主催者、日時、作品、運搬、費用、保障等）が報告され、参加者より活発な意見が飛び交った。しかしまだこの事業を開催するかしないかの調査段階であり、今迄の経過を踏まえ早急に「準備委員会」を結成し、この問題を考えて行くことが決定し、メンバーの選出は常任委員会に付託することが了承された。

理事会終了後、第二会場を萬重に移し、門連会員の親睦を深めた。

（藤井照源）

京都理事会本堂前記念撮影
平成10年12月2日

京都門連夏季大学開催

京都日蓮聖人門下連合会（岩崎峻暉理事長―法華宗真門流）は、八月二十日、本能寺文化会館で、第三十五回夏季大学を開き、僧侶檀信徒二百人が参加した。

二十一世紀に向けての法華信仰の展開―日蓮聖人と共に語る―をテーマに、生きててよかったね、生（久遠の命）きててよかったね、蘇生（い）きててよかったねと、過去・現在・未来にわたる三世の命の尊さを認識し、お題目を唱える私たちにとって、日蓮聖人の心を、どうとらえ、学び、広げて行くかを学んだ。

講演に先立ち、開講式が行われ、会長の総本山本隆寺真枝日世貫首を導師に、法味言上、岩崎理事長が挨拶し講演に入った。

総本山本隆寺真枝日世貫首は「一心欲見仏」と題し、「お釈迦さまは、一大事因縁をもって世に出現した。仏性をひき出し、成仏させんが為の出現で、その教えをしっかりと認識しなければならない」と開示悟入の意味を力説された。

続いて、東京農業大学教授進士五十八先生が「緑と生命と環境と」と題し講演した。進士先生は「環境は人間の手で作られている。現在は気配りを忘れてしまい余裕のない環境になっている」と説明し、生命シンボルとしての「グリーン」の大切さ、都市環境と「緑地」の役割の必要性、そして、エコロジーからアメニティへ向けた環境時代のまちづくりを目指さなければならないと訴えた。進士先生は京都市出身で、現在、日本都市計画学会理事、国土庁国土審議会専門委員、日本造園学会副会長等数々の要職にあり、主要著書に『アメニティ・デザイン―ほんとうの環境づくり』『緑のまちづくり学』『都市になぜ農地が必要か』等がある。

続いて、フジテレビプロデューサーの栗原美和子先生が「わたしの描きたいこと―テレビ番組プラザーズをプロデュースして」と題し講演した。テレビ番組で大反響の「プラザーズ」をプロデュースした事で、参加者の期待度も大であった。

講演は、プロデューサーとはどんな仕事かの説明から始まり、今まで製作した六つの作品の体験談を通し、プラザーズをプロデュースするに至った過程に話は進んだ。栗原先生のドラマ製作の根底には、「ラブ」「ヒューマン」「ハートフル」の三つが揃ってこそ成り立つものであり、今回の作品は、お寺を舞台にした家族愛、兄弟愛の絆を描きながら、人間同志の心のふれあいを伝えたいと考えた。自分が寺で生まれ、寺で育ち、寺で生きて来たそのものを伝えたいと思い、お寺を舞台にしたドラマを作るのが夢であった。

夏季大学（平成10年8月26日）

本隆寺本堂

本隆寺「夜泣き止め」の松

又、栗原先生は「お寺を舞台にしたドラマは、聖職の問題や危険性を秘めているので悩み事もたくさんあったが、これだというものを訴える時は、挑戦的でなければならないし、その苦悩を乗り越えてこそいい作品ができる」と、悩みのひとこまも披露した。

そして、「公共の電波を通じてドラマを見て戴くことは、プロデューサーの醍醐味で、感動してほしい、共感してほしいと常に思っている」と語り、最後に「これからも、見てくれる人々に、最終的に夢や希望を抱いてくれるドラマ作りを目指したい」と結んだ。

閉会式では、副理事長杉若恵隆師（日蓮宗）が「今日の講義をしっかりと認識し、お題目信仰を中心に更に精進していただきたい」とあいさつがあり終了した。

（藤井照源）

第七百十七回京都門連御会式奉行万灯行列復活

京都日蓮聖人門下連合会（岩崎峻暉理事長―法華宗真門流）は、十月三日総本山本隆寺に於いて、第七百十七回御会式を奉行し、僧侶檀信徒約二百名が参加した。

秋晴れの晴天に恵まれ、門下青年僧や随喜寺院による報恩唱題行脚並びに、三田市妙三寺（吉田宏遠住職）万灯隊の協力を得て復活した万灯行列は、本隆寺を出発し約一時間市中を行進した。

御会式法要は、総本山本隆寺真枝日世貫首を導師に、岩崎理事長と杉若恵隆副理事長（日蓮宗）が副導師にて厳修され、参列者一同御報恩の誠を捧げた。

法要後、本山立本寺加藤日祥貫首による「知恩報恩」の講義題で法話があり、檀信徒は信仰の心の糧を尊く得た。

加藤貫首は「日蓮聖人のご一生は知恩報恩にある。四恩を報ずる為に不惜身命の一生を貫いた日蓮聖人の御心を我が意とし二陣三陣と続きましょう」と結ばれた。

境内では福祉バザーが催され、伏見・大山崎共同作業所の協力を得て数多くの作品が展示され人気を呼んだ。

又模擬店では、おそば、おうどん、焼きそば、子供遊戯があり、御会式の一日を満喫した。

（藤井照源）

市中万灯行列（平成10年10月3日）

活発な大阪門連の動き

大阪日蓮聖人門下懇話会は、大阪地方を中心として門下九宗派の有志からなりその会員は京阪神から奈良和歌山まで及びます。

会員数は約百八十名、日蓮宗より理事五名、日蓮本宗、顕本法華宗、法華宗本門流、法華宗陣門流、法華宗真門流、本門法華宗、本門佛立宗、国柱会より各一名の理事を選出し、理事長副理事長をおき、功労会員である顧問と事務局一名も参画し、理事会を中心として運営しています。

平成十年は六月九日（火）総会　会場法華宗真門流福泉寺　講演は元国税局特別査察官税務署長中田安憲氏による「寺院の税務等に関して」。後懇親会参加三十四名。

十月十八日（日）日蓮聖人報恩合同御会式　会場日蓮宗薬王寺　歌題目日蓮宗視聴覚部の皆様　法要　法話、法華宗本門流岡松寺住職古田日穏上人「ほとけさまとわたくしたち」清興上方落語桂枝女太　参詣百十名。

十一月二十日（金）研修会　会場日蓮宗雲雷寺　講師日蓮宗現代宗教研究所々長石川浩徳師　安心立命とビハーラ活動（臓器移植問題を含む）参加四十五名

今後の予定として明年四月九日（金）京都本山めぐり要法寺、寂光寺、妙傳寺、頂妙寺の参拝を計画しております。

教学研究書の紹介

『本化攝折論』待望の復刊

平成十年は田中智学居士六十回忌に相当し、記念出版として同居士講述の『日蓮聖人の三大誓願』（定価一八〇〇円）、『本化攝折論』（定価二一〇〇円）が国柱会出版部・真世界社から復刊された。

『本化攝折論』は、明治三十四年七月、鎌倉片瀬の龍口寺で開かれた日蓮門下各教団連合夏期講習会（主催・橘香会）において講じたもので、その口述筆記を補訂、翌年二月に第一版が刊行された。

内容は、巻頭に「攝折の法門は、宗学の基本にして、宗門一切の法義に対する関門である」と述べられているが、攝受と折伏を根本問題ととらえ教学上から詳論し、本化上行日蓮聖人の折伏化導の意義を組織的に解明している。日蓮主義教学研究に必読の書といえよう。高山樗牛がこの書を読み感動。宮沢賢治にはこの書を研鑽して編んだ「攝折御文」があり賢治研究者からも復刊が待望されていた。

申込は真世界社（☎03―3656―7111）Ⓕ03―3656―9980）まで。

慶林日隆『四帖抄』発刊

室町時代の学僧・慶林坊日隆聖人著『法華天台両宗勝劣抄（四帖抄）』を正確に原文表記し、書き下し文及び頭註を加えて「法華宗全書」（第一巻配本）として間もなく発刊。A5版、上製貼函、布クロス装。頒価は1万5千円。申込は法華宗本門流宗務院（☎03-3910-4755）まで。

各派・教団 短信

法華宗本門流

◇布教及び教学の諸機関において次のごとく異動があった。教学研究所長に苅谷玄翁師（寝屋川・本信寺）、青年伝道隊運営委員長に中野良純師（高槻・慶住院）、教化センター所長に矢吹慈英師（福島・立正院）、機関誌『無上道』編集長に、圓成淳龍師（尼崎・恵運院）、『法華宗信報』編集長に杉村眞宏師（青森・本門寺）がそれぞれ就任し、開宗七五〇年に向けて盤石の体制を固めた。

◇海外布教の拠点、北米二教会（サンフランシスコ法華宗仏教会・本能寺サンフランシスコ別院）が開堂三〇周年を記念して去る11月22日慶讃法要を厳修。和田本能寺貫首、原井宗務総長ら20余名が渡米。

◇昨年10月に青年伝道隊発足30周年、また12月には『無上道』が創刊以来実に半世紀50周年・通巻600号の記念誌を発行。本年1月19日、京都・本能寺において奉告法要並びに合同祝賀会が開催される。

◇古来、日隆聖人の教学こそ最も勝れた日蓮教学であるとして、門下の子弟に対し、連綿とその教学を伝授してきた「興隆学林専門学校」（尼崎・大本山本興寺内）の平成11年度新入生募集中。（矢吹慈英）

本門佛立宗

◇かねて四大ご不快で静養されている、佛立第二十二世講有井上日慶上人は去る11月9日付をもって休務される旨を表明された。これに伴い、宗法第八条の規定に基づいて、第十一支庁神戸布教区大法寺住職・権大僧正・谷川日恩上人が11月10日付をもって『講有代務者』に就任された。◇谷川日恩・講有代務者上人は平成11年度の『年頭のおことば』で、『信心改良の第一歩は、初心の信心に還帰すること』と強調され、善聴参詣を勧奨せられた。◇滋賀県今津町の『佛立研修センター』の第一研修館が竣工した。竣工式が3月5日、定例宗会の最終日に挙行される。

◇昨年12月、佛立研究所から外国人のための和英対訳・佛立入門書『THE TEACHINGS OF HONMON BUTSURYUSHU』を発刊した。ニューヨーク・ローマ等に広がる、西欧人信徒の佛立入門書として活用されることを期待している。（深澤泉奥）

日本山妙法寺

◇1月8・9両日山主行勝院日達大上人第13回忌法要、熱海多摩両道場にて厳修。◇15日、東京夢の島を出発して焼津ビキニデー平和行進。◇28日、米国アトランタ道場より、キング牧師暗殺30周年記念平和行進。◇30日、ガンジー翁50周年行事、東京市ヶ谷私学会館で追悼行事。印度では各地で行事、ボンベイは五百人以上市中行進参加、集会法要。◇11日、首座上野行量上人遷化。19日、カンボジア行集に参加。◇4月5日、成田仏舎利塔前記念碑除幕式。22日、東京都日の出町ダイオキシンなどゴミ搬入阻止御祈念。28日、清澄山立宗会法要参列、広島長崎向平和行脚団結団出発。◇5月24日、イタリア・コミソ仏舎利塔落慶大法要。◇30日、英国ニューイングランド仏舎利塔13周年祈念法要。同日発道した諸宗教合同『中間航路』巡拝は、アトランタ道場出発、丸一年後アフリカ・ケープタウン迄歩きつづけて、ヨーロッパ行進団と合流する。◇6月20日、英国ロンドン仏舎利塔13周年祈念法要。24日、日韓両国仏教徒は7月3日まで平和行進。◇7月17日より24日までカンボジア平和行進は、毎日三千人の僧俗合同で大行進。25日、富士仏舎利塔は35周年祈念大法要を日蓮宗御参加を得て盛大挙行。◇8月5日、広島仏舎利塔32周年祈念大法要。6日ヒロシマデー、9日ナガサキデーのインドボンベイの反核平和行進は三千人参加し盛大。カルカッタでは十万人の反核行進で政府を叱る。15日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑法要参加後、市中行進して池上本門寺迄歩く。24日、熱海道場で西天教祈念法要。25日、身延山本堂参詣、奥の院思親閣参詣、行阿院様御墓前で参拝。◇10月10日、松戸市の八百屋さん御一家は成田仏舎利塔まで50キロを、二日がかりで撃鼓唱題して参詣。15日、沖縄平和祈念行脚は10月30日まで全島行脚。11月12日まで座込み御祈念。◇新ガイドライン戦争法に反対する国会御祈念を続行中。◇12月1日より8日まで、全日本山では、臘八接心断食で釈尊成道会を迎える。（石山善邦）

日蓮宗

◇中山法華経寺（長瀬日還貫首）では、来年に迎える開基・常修院日常上人第七百遠忌に向け、その報恩事業として昭和62年から12年かけて全山復興に取り組んできたが、この度本院の新築をもって、主要な事業がほぼ完遂した。◇第二十八回宗門先師追悼法要が12月17日、東京大田区の池上本門寺（貫首・田中日淳管長猊下）本殿で行われ、遺族遺弟をはじめ宗会議員、宗務所長ら来賓合わせて百六十人が参列した。この法要は毎年日蓮宗管長導師で営まれており、今年は平成9年10月1日から本年9月30日までに日蓮宗宗務院に遷化届けがあった百二十六人の先師に回向を捧げた。◇全国日蓮宗青年会は10月27、28日の二日間にわたり、新潟県佐渡ヶ島で唱題行脚と街頭布教を行った。◇創価学会が「日蓮聖人の霊跡の地、佐渡で土地を取得し、研修会館を建設する」という情報に対して、「行動からはじまる」をスローガンとする全日青は全国の青年僧に霊跡護持を呼びかけ「佐渡伝道」として実施した。佐野委員長をはじめ百五十人が参加、日蓮宗の存在をアピールした。（太田順祥）

国柱会

◇全国各地方連合局で講習会、儀典研修会、婦人の集い等を開催。◇6月6日、講師補任用試験。6月27日、国柱会湘南局が設立し祝賀会。◇7月5～6日、弘前で奥羽地方開教百年記念大会、渡部昇一氏記念講演。7月7～8日、佐渡霊蹟参拝の旅。◇8月、第46回国柱会少年少女夏期学校。近畿地方、山陽・四国地方でも開校。22～23日、大阪で「近畿青年の集い」。26日、田中香浦前会長三回忌法会。◇9月15日、京都の妙顕寺を会場に京都局開教百周年記念大会。19～20日、式士任用試験。◇10月3日～4日、身延大祖廟輪番給仕第34回国柱会奉仕団。御門下を代表し田中暉丘会長を団長に昼夜不断の唱題給仕。11日、福岡東公園の日蓮聖人銅像前で屋外宣伝。12日、池上本門寺で恒例の屋外宣伝。◇11月3日、明治神宮参拝。近畿連合局は桃山御陵参拝。15日、定例協議員会。役員改選。大橋邦正講師が理事長に就任した。新年度の事業計画等を審議。16日～17日、恩師田中智学先生第60回忌報恩大会。同60回忌報恩記念出版『日蓮聖人の三大誓願』に続いて『本化攝折論』復刊。（秋場善彌）

京都門下連合会

◇7月22日御会式企画委員会。於総本山本隆寺、御会式の件◇8月26日夏季大学。於本能寺会館テーマは「二十一世紀に向けての法華信仰の展開―日蓮聖人と共に語る―」、26日理事会。於本能寺会館、御会式の件。◇9月29日御会式奉行委員会。於総本山本隆寺御会式の準備と最終打ち合わせ。◇10月3日御会式。◇11月9日理事会。於総本山本隆寺、全門連京都理事会懇談会の件。◇12月2日全門連京都理事会。理事会は総本山本隆寺、懇親会は万重。◇12月15日会計監査、於総本山本隆寺。◇12月17日理事会。於本能寺会館、平成10年度決算報告・平成10年度会務報告・平成10年度（藤井照源）

顕本法華宗

◇8月25日～9月8日、妙塔学林本科・研修科を総本山妙満寺に於いて開講した。◇10月13日、総本山妙満寺御会式奉行。また、前日12日には御会式御逮夜法要並に、本年度新任住職奉誓式を奉行した。◇11月6日、東部教区僧員講習会。千葉市浜野本行寺を会場に、講師本宗特命布教師朝倉俊幸師を講師にお招きして「宗祖に学ぶターミナルケア」をテーマに、末期医療と仏教の関わり方を、日蓮聖人の御遺文を通して研修した。◇11月14、15日、三宗統合学院（後期）開講。会場東京品川天妙國寺を会場に、顕本、陣門、真門三宗による後期三宗統合学院を、本宗当番により、講師窪田哲城師に「日蓮教学の伝統」と題して御講義頂いた。◇11月18日、西部教区僧員講習会会場、京都総本山妙満寺において、講師特命布教師朝倉俊幸師による「仏典に学ぶターミナルケア」の講習会を開催した。◇11月24日、妙塔学林研究科開講。京都総本山妙満寺において、前管長、古瀬日宇猊下を講師に「十如是について」の御講義を頂いた。（多門顕正）

日蓮本宗

◇7月25日より27日までの三日間、本山に於いて未教師対象の夏期研修会が開催された。十一名の参加者は暑い中、実習を含む七講座をこなした。最終日は早朝より本山から京都市内を唱題行し、鳥辺野の御廟をお参りして全ての日程を終了した。◇8月30日、福島県霊山町の蓮昌寺に於いて、第三教区の檀信徒研修会が実施された。外部講師は島根県の妙伝寺住職の田中良英師。◇9月初旬、本宗選挙制度改革に尽力された田中良英宗務総長（出雲市妙伝寺住職）が退任され、新たに永田智秋師（出雲市松久寺住職）が内局を指揮することになった。◇9月22日、大阪市西成区の正福寺住職・高橋勇夫師が遷化された。師は大谷女子短期大学で教鞭を執られる一方、『法華百話』『遺文百話』等の百話シリーズの著者としても知られていた。◇10月13日、本山にて御大会式奉修。翌14日早朝、京都東山区鳥辺野の実報寺に御廟参。◇11月12日、岐阜県垂井の日目上人茶毘所である日目庵にて、本山要法寺貫首日有猊下大導師の下、全国末寺教師並びに多数の檀信徒が参加して、要法寺第三祖・日目上人第六百六十六年御報恩併霊跡茶毘所修復完工法要を厳修した。当日は晩秋にもかかわらず、温かい天候に恵まれ、参加の檀信徒の皆様と共に喜びを分かち合った。（柳下正則）

法華宗真門流

◇各種講習会開催。8月23日～29日まで総本山本隆寺に於て、青年僧学生僧を対象とした講習会が開催され、講義　法式等の研鑽を深めた。◇総本山宝蔵開扉。8月25日総本山本隆寺本坊客殿に於て、寺宝、什物の虫払い会展観法要が開催された。◇第一教区『秋の文化講演会』開催。大阪福泉寺（木下恵温住職）に於て、僧俗百名の参加を得て、文化講演会が開催された。◇第二教区総会開催。9月6日教区内教師40名が参加し、教区総会が開催され、教区所長の任期が、本年度で満了に伴ない、次期所長選出の結果、武生勇猛院遠藤昭栄現所長が再任された。◇10月12～13日、総本山御会式奉修。10月13日、総本山本隆寺において、初転法輪挙行、本年は三名（福井県堀喜晴師、北海道安井泰信師、兵庫県安田真明師）が初転法輪に臨んだ。（堀内浩善）

法華宗陣門流

◇7月31日、宗務院会議室に於いて宗法審議委員会が開催された。議題は、①財務規則の問題点、②総本山研修所規則について、③布教研究所規則、④その他であった。◇9月1日「法華宗おつとめ要典・CD版」が完成し、本宗檀信徒並びに一般の方々へ広く発売になった。これは本宗の一般檀信徒向けに発売しているお経本、「おつとめ要典」のお手本となるものが欲しいと、かねてからの要望に答え実現したものである。お経以外にも、法要で使われる代表的な雅楽の演奏が納められている。◇9月3・4日、法華宗中央行学講習会が京都にて開催された。第一日目第一講義は、京都別院本禅寺山主、福井日進師で、演題は「京都本禅寺沿革」であった。第二講義は、東洋大学名誉教授、金岡秀友先生で、演題は「鬼子母神信仰」であった。二日目は、本門法華宗・大本山妙蓮寺、日蓮宗・本山本法寺、各寺を参詣し、本宗別院本禅寺にて閉校式となった。◇11月14・15日、三宗統合協議会・後期「統合学院学生講座」が顕本法華宗当番宗の下、天妙国寺会議室にて開催された。講師は顕本法華宗元教学研究所所長、窪田哲城先生で、講題は「日蓮教学の伝統」であった。（松吉慶憲）

本門法華宗

◇10月12日・13日大本山妙蓮寺（松本日望猊下）では三大会の一つである、宗祖日蓮大菩薩御会式報恩法要が厳修された。12日お逮夜法要に併せて境内を飾る万燈が一斉点灯されたほか、恒例のフリーマーケット・音楽奉納など行われた。◇11月12日大本山妙蓮寺では、ご開山日像菩薩御報恩法要が厳修された。併せて、三師会（日慶・日忠・日応上人）、歴代上人年忌法要が門末寺院教会住職僧侶総出仕、檀信徒有縁各位多数が登山参詣のもと行われた。◇本門法華宗学院では9月16・17日に第87回教学講習会、12月4・5日に第88回教学講習会を大本山妙蓮寺卯木講堂で開講した。講師陣は増田日紘猊下・杉本日慈猊下・飯田信栄本山執事長・白山智宏教授・北川前肇立正大学教授。（木村光正）

るつうぶん　流通文　るつうぶん

＊平成と年号を改めてから早いものですでに十一年、平成十四年の開宗七五〇年まで、いよいよカウントダウンの体制に入りました。御門下各派はその記念事業として、本末こぞって伽藍、堂塔の整備に着手する機運にありますが、新世紀まで後二年余りとなった現在、金融破綻、企業の倒産等々、一九二〇年代の大不況に酷似していると言われているにもかかわらず、これらの事業を推進することは、檀信徒の方々にとって物心共に大変なご負担であると思われます。

＊前号の流通文でも法器養成の事に触れられていました。今こそ各宗門の枠を越えて、積極的に人材交流を図ることこそ優先すべきではないでしょうか。いくら外観を立派に整えても、柱のない建物は空しく砂上の楼閣となり得るのであります。（柳）